

六日町史

通史編 第一卷 自然・先史・古代・中世



六日町史 通史編第一巻（自然・先史・古代・中世）

目 次

口絵

発刊のことば

はじめに

凡例

自然編

第一章 六日町地域の地形・地質

第一節 六日町地域の地形のなりたち

- 1 六日町の位置と地形

六日町の位置と地勢

六日町の交通

六日町を取り巻く地形

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

越後山脈地域の地形	越後山脈地域の地質	中ノ岳斑れい岩	水無川變成岩	奥利根層群
花岡岩類	城内層群			
魚沼丘陵地域				
3				
魚沼丘陵の地形	魚沼丘陵の地質	一村尾層	岩之沢層	和南津層
4				
樹形山溶岩				
六日町西山地域				
5				
西山地域の地形と地質	上の原Ⅰ面	上の原Ⅱ面	上の原Ⅲ面	野世ヶ原面
六日町盆地の地形	六日町盆地の地質	六日町盆地西縁の活断層	六日町断層の確認	沖積面
6				
六日町盆地の長期評価				
6				
六日町地域の地下資源				
6				
六日町温泉	五十沢温泉	畔地温泉	河原沢温泉	南越鉱山
7				
六日町地域の地盤沈下				
7				
地盤沈下の経過と対策	地質構造と帶水層	地下水位の変化と地盤沈下の状況	地下水利用と新たな規制	
8				
魚野川				
魚野川流域の概要	魚野川の近年の主な水害	魚野川の改修	魚野川流域の砂防事業の展開	
三国川ダムの洪水調節	魚野川の水環境と課題			

第二章 気象と気候

第一節 気象と気候の様子

1 六日町地域の気象と気候	気温	降水量	日照時間	湿度
六日町地域の気象と気候の概要				
	風向・風速		降雪・積雪	

第三章 動物と植物

第一節 南魚沼地域の動物

1 南魚沼地域の昆虫	南魚沼のファーブル			
昆虫をとりまく環境	蝶類の記録と変遷			
2 南魚沼地域の魚類	ブラックバス類の駆除			
魚野川に生息する魚類	六日町西山地域の有尾類	サンショウウオの仲間	イモリ	
3 六日町地域の両生類・爬虫類	サナエカガエル	ニホンアカガエル	タゴガエル	トノサマガエル
六日町地域の両生類と爬虫類	ヤマアカガエル			
六日町地域の無尾類(カエル)				
ツチガエル	モリアオガエル	シユレーゲルアオガエル	アズマヒキガエル	

カジカガエル	六日町地域のトカゲ類・ヘビ類	トカゲとカナヘビ	ニホンヤモリ	アオダイショウウ
シマヘビ	ヒバカリ	ヤマカガシ	ジムグリ	ニホンマムシ
六日町地域で観察される鳥類	魚野川およびその周辺地域の鳥類	魚沼丘陵および東側山麓地域の鳥類	野鳥の種類と生息環境	人と共存する雪国六日町のツバメ
六日町地域の鳥類	魚野川およびその周辺地域の鳥類	魚沼丘陵および東側山麓地域の鳥類	南魚沼地域の大型哺乳類	
南魚沼地域の大型哺乳類			大型哺乳類の生態概要	
ツキノワグマ	ニホンジカ	イノシシ	カモシカ	ニホンザル
キツネ	ハクビシン	アナグマ	ニホンノウサギ	タヌキ
第二節	南魚沼地域の植物			
1 南魚沼地域の低地のブナ林	南魚沼地域低地ブナ林の特徴と生育状況	大倉のブナ林	黒土のブナ林	後山のブナ林
ブナ林の概要				
大杉新田のブナ林	野田のブナ林	蟻子山のブナ林①	蟻子山のブナ林②	
吉里シャトースキー場前のブナ林	吉里集落裏山のブナ林	大沢のブナ林	笠置山のブナ林	
雲洞のブナ林	飯士山のブナ林	ブナ林をとりまく状況		
第二節	南魚沼地域の植物			
1 南魚沼地域の低地のブナ林	南魚沼地域低地ブナ林の特徴と生育状況	大倉のブナ林	黒土のブナ林	後山のブナ林
ブナ林の概要				
大杉新田のブナ林	野田のブナ林	蟻子山のブナ林①	蟻子山のブナ林②	
吉里シャトースキー場前のブナ林	吉里集落裏山のブナ林	大沢のブナ林	笠置山のブナ林	
雲洞のブナ林	飯士山のブナ林	ブナ林をとりまく状況		

先史・古代編

第一章 氷河期を生きた狩獵の民

第一節 人類の誕生と進化

第二節 陸橋の形成と人類拡散

第三節 古本州島に人類が現れたころ

第四節 魚沼地方の後期旧石器時代

第五節 魚野川流域の後期旧石器時代

115

120

124

131

第二章 雪国における狩猟採集社会としての縄文文化

第一節 縄文時代の始まり

136

第二節 魚沼地方の縄文時代草創期

139

第三節 縄文土器にみる縄文文化

- | | |
|------------------------|---|
| 1 世界の新石器時代と縄文時代 | 1 |
| 2 時間の目盛りとしての土器型式 | 2 |
| 3 縄文土器の一萬年の変遷 | 3 |

第四節 南魚沼地域の縄文集落と住まい

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1 定住化と堅穴住居の出現と洞窟利用 | 1 |
| 2 「縄文海進期」の魚沼地方 | 2 |
| 3 環状集落の出現と長方形大形建物 | 3 |
| 4 屋内炉の巨大化と複式炉の出現 | 4 |
| 5 後期集落形成と大規模配石遺構の広がりと在地化 | 5 |
| 6 石を床に敷く柄鏡形敷石住居の受容と在地化 | 6 |
| 7 異なる建物構造の掘立柱建物の普及 | 7 |
| 8 後期後葉の集落形成における墓域と広場空間の分離 | 8 |

173 170 170 168 165 161 157 156

147 145 143

第五節 縄文人の食生活と資源利用

目 次

第七節 雪国での狩猟採集社会	205	1 環境と生業活動	176
1 雪国での生活と集落と住居	202	2 繩文時代の環境	191
	200	縩文活動と動物種	191
	196	河川での漁撈活動	191
	195	植物性食物の利用	191
	191	水の利用	191
第六節 儀礼の道具		2 資源利用と地域間交流	176
1 縩文時代の儀器		漆と赤色顔料の利用	176
「第二の道具」をめぐって		石材利用	176
2 土偶		アスファルトの利用	176
土偶の出現と普及			
3 石棒			
石棒			
白い石棒と緑の石棒、黒い石棒			
4 装飾品としての儀器			
玦状耳飾と土製耳飾			

		2 雪国における縄文社会	207
第三章 山里の農耕文化——弥生時代——			
第一節 日本列島における農耕文化の形成			
1 弥生時代の始まり	213	211	210
2 弥生時代の時期区分	213	211	210
3 稲作の始まり	213	211	210
稻作の始まり	213	211	210
4 弥生文化の波及	213	211	210
水田の遺構	213	211	210
第二節 魚沼地方の農耕文化			
1 弥生文化の発見	223	222	219
2 挿点集落の形成	223	222	218
3 南魚沼の弥生時代の幕開け	223	222	218
4 東北系土器の広がり	223	222	218

第三節 弥生から古墳へ

- 1 弥生人の交流
2 倭国大乱と弥生時代の終焉

第四章 古墳の造られた時代

第一節 地域を治めた権力者の出現

- 弥生から古墳へ 古墳時代の時期区分 外来系土器の出現 古墳文化の流入経路
北陸から越後の古墳出現 佐渡への古墳の伝播 城の山古墳とヤマト政権
日本海側最北の前方後円墳

第二節 首長墳から群集墳へ

- 越後最大の古墳 蒲原平野の中期古墳 南魚沼への政治的拠点の移動
南魚沼での古墳の出現 首長墳と初期群集墳の造営 飯綱山古墳群の形成

底抜けの土器と葬送儀礼　壺形埴輪の出現　葺石をもつ古墳の意味
鎧を副葬した古墳の被葬者像　越後最古の馬具
舶載方格規矩鏡と小型仿製鏡の副葬　須恵器の出現と祭祀
蟻子山古墳群の形成　石製模造品を使った祭祀　飯綱山古墳群と余川中道遺跡
ヤマト政権と上毛野勢力の確執　蟻子山古墳群と金屋遺跡　南魚沼における初期群集墳の盛衰

第三節 勢力圏の変化・移動

古墳時代後期の越後　南魚沼から頸城へ　横穴式石室の導入
装飾付大刀の副葬　後期群集墳の造営　前方後円墳の一代限りの復活

第四節 集落からみた南魚沼

古墳時代のくらし　谷水田の經營　災害痕跡と川辺の祀り　呪術による共同体の掌握

木製農具から鉄製農具へ　古墳時代の鍛冶の痕跡

第五章 領域支配の始まり

目 次

第一節 律令が生まれるまで	
1 古墳時代との違い	259
國家の形成	國家領域の確定
文字を使う官僚の誕生	
2 律令国家誕生に向けて	262
3 倭の五王の時代	六世紀の変化
六世紀に生まれた国造制	
國造制	魚沼の国造
越後の国造	
第二節 越後の国の成り立ちとその役割	
1 湾足柵と磐舟柵	267
越後の特徴	二つの柵の位置と役割
2 出羽国・越後国・信濃国	271
出羽国・越後国・信濃国の成立と領域確定	
越後国・信濃国の形成	越後国府の位置
越後国府の移動	越後国・信濃国の特殊性
第三節 大宝律令と地方支配	
1 国と郡が作られる	275

第六章 人々のなりわい

第一節 遺跡からみえる人々の暮らし

- | | | |
|-----------------------|----------------------------|----------|
| 2 | 行政単位としての国・郡
越後国にみられる国と郡 | 国司と郡司の役割 |
| 「告朔」への呼び出し
「出拳」の計算 | | |

第二節 遺跡からみえる律令の制度

- | | | | |
|---|---|-----------------------|-----------------------------|
| 1 | 長表遺跡からみえるもの
長表遺跡　墨書き土器　特徴的な文字　墨書き土器の使われ方 | 六日町地域の古代の始まり
人々の負担 | 金屋遺跡からみえる集落の形と生活
戸の負担と対応 |
| 2 | 郡家の所在 | 律令に定められた農民負担 | 六日町地域の形成 |
| 3 | 郡家の条件 | 戸の負担と対応 | 六日町地域の形成 |
| 4 | 郡家の所在と四郷の比定 | | |

第三節 生産遺跡からみえるもの

- | | |
|------------------------|-----|
| 1 須恵器の窯 | 289 |
| 朴木遺跡の須恵器 須恵器生産と寺尾の窯跡 | 291 |
| 2 鉄器の生産 | 289 |
| 鋸冶を行う坂之上遺跡 鉄器生産と人々の暮らし | 291 |

第四節 人々の行き来

- | | |
|-----------------------------------|-----|
| 1 羽釜型土器にみる人々の行き来 | 294 |
| 羽釜型土器 六日町地域の羽釜型土器 羽釜からみえる群馬地域との交流 | 294 |
| 2 小泊産須恵器にみる人々の行き来 | 296 |
| 越後における小泊産須恵器 金屋遺跡の須恵器 | 296 |

第五節 人々の祈り

- | | |
|--------------|-----|
| 1 祈りの考古学的証拠 | 298 |
| 宗教の伝播 式内社の位置 | 300 |
| 2 律令的祭祀の姿 | 298 |

国厅・郡家での祭祀	3
六日町地域の墨書き土器
金屋遺跡の墨書き土器 「厨」の墨書き
第六節 集落の解体と移動	300
1 全国的な集落の解体と移動
律令期の集落	集落の移動
六日町地域での集落の変化	集落の変化
2 金屋遺跡の場合	堅木遺跡の場合
	古代から中世へ
第七章 六日町地域の先史・古代研究	303
第一節 戦前の先史・古代研究の動向	309
明治時代の動向	大正時代の動向
	昭和時代（戦前）の動向
第二節 戦後の先史・古代研究の動向	314
昭和時代（戦後）の動向

目 次

第三節	新潟大学考古学研究室による飯綱山・蟻子山両古墳群の学術調査	322
第四節	開発に伴う遺跡発掘調査	324
	新潟県による発掘調査	
	六日町による発掘調査	
『先史・古代編』主な参考・引用文献	328	

中世編

第一章 上田莊と長尾氏

第一節 上田莊と浦佐保
353

第二節 上杉氏と上田莊
357

第三節 長尾房景とその時代
365

第四節 尻高氏とその活動
370

第五節 長尾顯吉とその時代
373

第二章 中世の地域社会

第一節 中世の郷村
378

第二節 寺院の展開
391

第三節	百姓と耕地	397
第四節	墓石と石塔	402
第五節	人々の往来と道・川	406
第三章 長尾房長の時代		
第一節	長森の戦い	411
第二節	長尾為景と長尾顯景・房長	417
第三節	六日市の戦い	420
第四節	長尾為景の時代	423
第五節	為景と房長の抗争	428

第四章 長尾政景の時代

第一節 長尾景虎の登場	437
第二節 景虎と政景の争い	440
第三節 景虎の出奔と政景の対応	445
第四節 信濃への出陣	451
第五節 府内の留守役	455
第六節 政景の急逝	460

第五章 長尾喜平次の時代

第一節 喜平次の生い立ち	465
第二節 大井田藤七郎・喜七郎父子と長尾伊勢守	467
第三節 栗林次郎左衛門尉と上田衆の転戦	469
第四節 長尾顯景、上杉景勝を名乗る	472
第六章 御館の乱	
第一節 謙信の死と春日山城占拠	474
第二節 上田の深沢刑部少輔と景勝	476
第三節 武田勝頼との同盟、後北条軍の樺沢城占拠	479
第四節 景勝の叱咤と樺沢城奪還	481

第五節 御館落城と景勝の越後平定	484
第七章 上杉景勝の時代	
第一節 地元を守る上田衆、台頭する上田衆	486
第二節 武田氏の滅亡、織田軍の撤退	488
第三節 秀吉と景勝と上田	491
第四節 越後・佐渡・出羽庄内の平定と上田衆	494
第五節 小田原攻め・朝鮮出兵と上田衆	496
第六節 豊臣政権大老の景勝と会津国替え	499

第一節 南魚沼にのこる経塚	502
第二節 戦乱と災害と地域社会	506
第三節 越後過去帳にみえる上田の人々	509
第四節 檢地と文禄三年定納員數目録と上田衆	513
第九章 六日町地域とその周辺の城	
第一節 六日町地域とその周辺の城の歴史	
1 城とは何か	516
2 各時代の城郭	520
3 中世城郭の構造	522
4 六日町地域の中世城郭分布	522

目 次

第二節 坂戸城の防御体制

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 坂戸城の防御体制の変遷 |
| 2 | 坂戸城の織豊系城郭化 |
| 3 | 坂戸城本体の防御体制 |
| 4 | 坂戸城と清水越の直路城および荒砥城 |

第三節 六万騎城の防御体制

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 立地と占地する地形 |
| 2 | 一城別郭形式の縄張 |
| 3 | 独立性の強い堡塁が築かれた理由 |

第四節 権沢城の防御体制

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 権沢城の占地と立地 |
| 2 | 権沢城の縄張 |
| 3 | 権沢城の縄張を変貌させた軍事的緊張 |

553 549 548

543 542 541

536 534 530 525

《中世編》主な参考・引用文献

556

執筆者一覧

559

郷土史編さん関係者名簿

560

資料所蔵者・協力者一覧

565

あとがき